

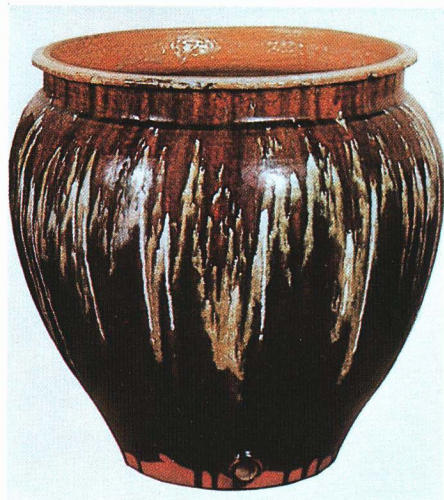
## (2) <sup>や</sup> <sup>もの</sup> 焼き物工場ができたわけ

町には、焼き物工場が一番多くあります。

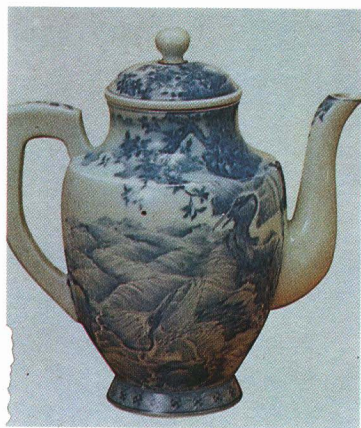
その理由は、会津本郷焼が古い<sup>れきし</sup>歴史をもっていて、その<sup>ぎじゆつ</sup>技術が現在に受けつがれているからです。

今から350年ほど前、会津の<sup>どの</sup>殿様につれてこられた<sup>どうこう</sup>陶工（焼き物をつくる人）が、ここに焼き物に<sup>てき</sup>適した土をたくさん発見したためです。

そこで、この町に<sup>かま</sup>窯をつくって、焼き物（<sup>どうき</sup>陶器）づくりを始めました。



<sup>どう</sup> <sup>き</sup>  
陶 器



<sup>じ</sup> <sup>き</sup>  
磁 器

これが、会津本郷焼の始まりです。その後、150年ほど過ぎて、<sup>じき</sup>磁器（白い焼き物）もつくられ始め、現在も陶器と磁器が生産されています。

関東地方から北の方で、磁器が生産されているのはわたしたちの町だけです。

陶器：原料が陶土という土なので、土ものともいわれます。

磁器：原料が陶石という石なので、石ものともいわれます。